

直方市決算

令和2年度

要点紹介

令和2年度の市の決算が次の表のとおり議会で承認され、確定しました。
その内容について、ご紹介します。

CHECK 1 令和2年度も実質収支は 黒字となりました

令和2年度、一般会計（※1）の決算はグラフ①のようになります。歳入総額が約359億9千万円、歳出総額が約343億3千万円、収入から支出を差し引いた収支（形式収支）は約16億8千万円の黒字です。

これから令和3年度に繰り越して行うことになった事業に要する経費を除いた収支（実質収支）では、約10億円の黒字決算です。

単年度で見た場合の収支（実質単年度収支）では、約9億円の黒字でした。例年と比較して非常に大きな黒字額となっておりますが、この原因は汚泥再生処理センター（新し尿処理場）

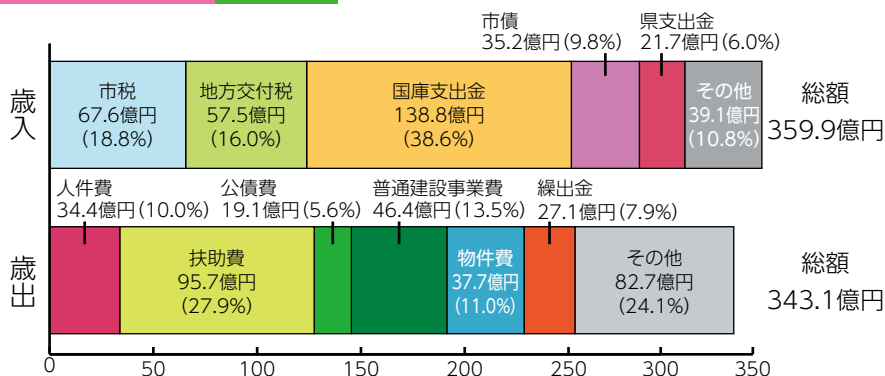
建設事業に関して国の新型コロナ対策が適用され、本来翌年度に歳入を受けるべき国庫補助金などが前倒しで交付されたことによります。

この特例措置により、約6億5千万円の歳入を受けておりますので、現実的な実力としての実質単年度収支は約2億5千万円の黒字であったと見込みます。また、先に入ってきたこの6億5千万円は、そのまま翌年度へ繰り越して令和3年度の事業費支払いの際に使用されることになります。

歳入の中身を見ると、地方交付税、国県支出金、市債といった国等に依存するものが約7割を占め、市税等の自主的に確保できる財源の割合は、全体の約3割弱にとどまっています。

これは、市の財政運営が依然として、国の地方財政計画等によって大きく左右される状況にあるといえます

一般会計決算 グラフ①



特別会計 表①

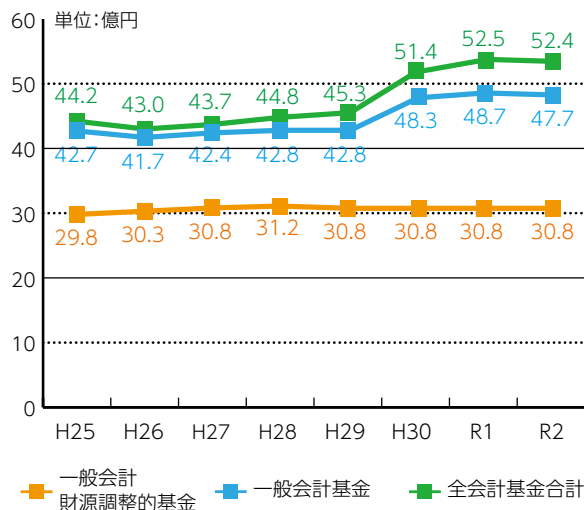
● 国民健康保険特別会計 <table> <tr><td>歳入</td><td>58億6,007万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>56億7,864万円</td></tr> </table> ● 同和地区住宅資金貸付事業特別会計 <table> <tr><td>歳入</td><td>2,586万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>1,324万円</td></tr> </table> ● 介護保険特別会計(保険事業勘定) <table> <tr><td>歳入</td><td>66億7,319万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>63億7,488万円</td></tr> </table> ● 介護保険特別会計(介護サービス事業勘定) <table> <tr><td>歳入</td><td>4,448万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>4,211万円</td></tr> </table>	歳入	58億6,007万円	歳出	56億7,864万円	歳入	2,586万円	歳出	1,324万円	歳入	66億7,319万円	歳出	63億7,488万円	歳入	4,448万円	歳出	4,211万円	● 後期高齢者医療特別会計 <table> <tr><td>歳入</td><td>9億9,502万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>9億7,174万円</td></tr> </table> ● 上頓野産業団地造成事業特別会計 <table> <tr><td>歳入</td><td>1,778万円</td></tr> <tr><td>歳出</td><td>1,778万円</td></tr> </table>	歳入	9億9,502万円	歳出	9億7,174万円	歳入	1,778万円	歳出	1,778万円
歳入	58億6,007万円																								
歳出	56億7,864万円																								
歳入	2,586万円																								
歳出	1,324万円																								
歳入	66億7,319万円																								
歳出	63億7,488万円																								
歳入	4,448万円																								
歳出	4,211万円																								
歳入	9億9,502万円																								
歳出	9億7,174万円																								
歳入	1,778万円																								
歳出	1,778万円																								

直方市の
台所事情を
チェック
してみよう

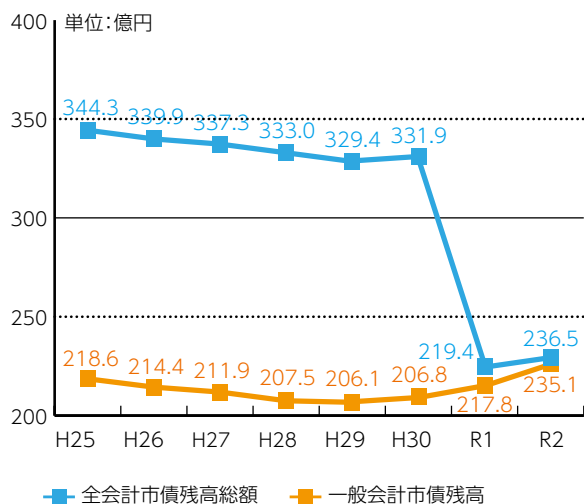
問い合わせ

財政課
(TEL 25-2231)

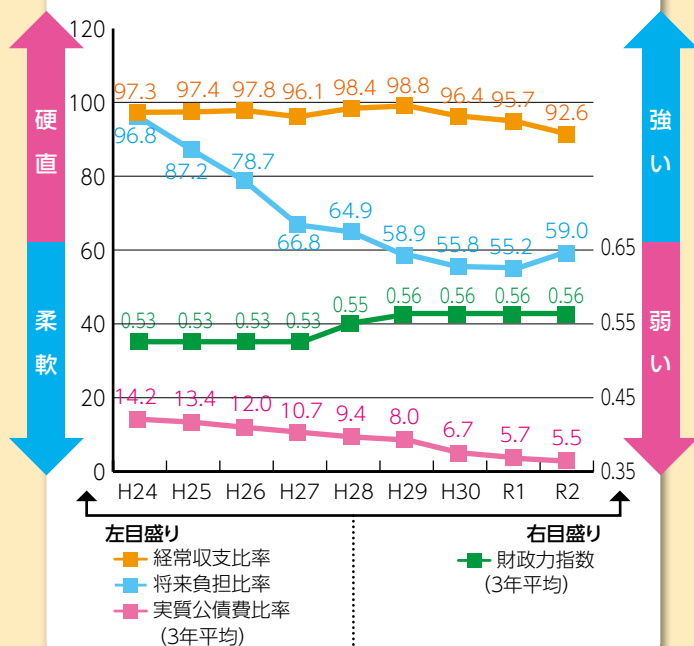
基金残高の変化 グラフ②



市債残高の変化 グラフ③



各種財政指標の推移 グラフ④



が、これらの依存財源のうち主なものである地方交付税については減少傾向にあり、今後も同様の傾向が続くものと見込まれます。

また、市税等についても、今後新型コロナウイルス感染症の影響により減少することが予想され、大変厳しい状況になることが危惧されます。

歳出では、人件費、貸付金等が前年度より減少していますが、物件費、維持補修費、扶助費、補助費等、公債費、普通建設事業費、繰出金が増加しています。

公債費については前年度まで減少傾向

CHECK 2

気になる貯金(基金と借金(市債)の残高は

貯金は減少・借金は増加

※1 市町村などが通常行っている業務にかかる経費と収入のまゝり。

なお、特別会計の決算は表①のようになります。

向が続いていましたが、市営住宅の建て替えや、し尿処理場建設等、大型事業のための借入金の償還開始に伴い、令和2年度から増加に転じています。

令和2年度末時点での基金(貯金)と市債(借金)の残高の推移は左図グラフ②、グラフ③のようになります。

基金残高は約52億4千万円、このうち一般会計分は約47億7千万円、一般会計分の中でも使いみちが特定されていない財源の調整に使える基金は約30億8千万円です。

前年度に比べて、市の基金残高は約1千万円減少しました。

次に市の借金である市債残高は、一般会計とその他特別会計も含めた総額で約236億5千万円となり、前年度に比べて約17億1千万円の増と

なっています。

市債残高の内訳は、一般会計で約235億円1千万円(前年度より約17億3千万円の増)、特別会計では、上頓野産業団地造成事業で約1億4千万円(前年度より約2千万円の減)、同和地区住宅貸付事業特別会計で約百万円(前年度より約百万円の減)となっています。

一般会計の残高が大幅に増えているのは、主に市営住宅の建て替えや、し尿処理場建設等の大型事業のための借入金によるものです。